

# 令和7年度 6月の補導活動

佐久市少年センター

1 街頭補導実施回数	19回
2 延べ従事補導委員数	81人
3 相談件数	1件
4 補導した少年数	2人
5 声かけ人数	368人



## 6月の活動日誌から

6月2日（月）

1班（K・M）記

**巡回経路** 大型スーパー → フードコート → ゲームコーナー → 砂田公園  
→ 市民交流ひろば → 近津南公園 → ねむのき公園  
→ ゆりのき公園

### 活動の様子



本日の活動は、佐久平浅間小学校の運動会の代休日ということもあり、小学生の姿を数多く見受けました。大型スーパーのゲームコーナーでは、親子連れの子どもたちを多く見かけました。砂田公園や近津南公園では、数名の子どもが遊んでいました。屋外で過ごす子どもたちに接し、とても良い傾向だと感じました。その他の公園に人影はありませんでした。佐久市には、整備された良い環境の公園がとても多いと思います。市民交流ひろばでは、多くの親子連れや子どもたちが楽しそうに遊んでいました。気候が良くなり、公園の利用者も増えているように感じます。最近、子どもたちの外で遊ぶ機会が減っているように感じていましたが、こうしたようすを目の当たりにすると、屋外でのびのびと過ごすことは、子どもたちの成長過程において、とても大切なことだと改めて感じました。

6月3日（火）

9班（I・M）記

**巡回経路** 生涯学習センター → 野沢多目的広場 → 野沢児童館 → 城山公園  
レンタルショップ → 生涯学習センター

### 活動の様子

集合場所である生涯学習センターの「つどいの広場」には、4組6名の児童がいたが、ほぼ全員がゲームを行っていた。雨降りのため、公用車で主に建物中心に巡回を行った。野沢多目的広場の一角にあり、すでにオープンしている建物「交流施設」には、誰でも利用することができる広間がある。そこに、4組9名の児童がいたが、生涯学習センターと

同じようにスマホゲームやカードゲームを行っていた。4年生以上の児童が多いようで、生涯学習センター同様、帰宅前の息抜きできる場所になっているようだ。夕方になったら、まっすぐ帰るよう声かけをした。野沢児童館では、70～80人ほどの子どもたちがバスケットボールやパズルの組み立てなど思い思いの遊びで楽しんでいた。とても元気よく活発に遊んでいるようだった。職員の一人に子どもの様子をうかがうと「『もう少ししっかりしたあいさつ』と『ありがとうという感謝の気持ち』を持ってくれば良いなと思う」とおっしゃっていた。城山公園とレンタルショップでは、子どもの姿は見られなかった。

6月4日（水）

2班（A・N）記

**巡回経路** 大型ゲームセンター → ネットカフェ → ゲームセンター  
→ 曾根公園 → 仙祿湖公園 → 久保田公園 → 小田井児童館

### 活動の様子

本日は、私たち3名の補導委員にとって初めての街頭補導活動である。大型ゲームセンター集合であるが、ゲームセンターなどにおいて、どのような行動に対し補導するのか不安な気持ちで参加した。しかし、しばらく活動する中で、専門補導委員の説明により理解できた。大型ゲームセンターでは、親子や夫婦の客が7、8組おり、広い年代層の人たちが遊んでいた。ネットカフェは、会員制であるので施設側も安心とのこと。オープンスペースは、だれもいなかったが、個室使用者が5、6人いた。曾根・仙祿湖・久保田の3公園に人影は見られなかった。しかし、久保田公園に隣接する道路で3名の男女小学生がスケートボードをしていた。この道路の通行車両は近隣の方が大半と思われるが、道路上であり危険であることを伝えた。小学生と別れる際に「さよなら バイバイ」と言われ、ほのぼのとした気分になった。小田井児童館では、8名の小学生が室内の遊具などで遊んでいた。小学校の先生方の働き方改革により、下校時刻が早くなり利用時間が拡大するのではとの話もあった。本日は、初めての街頭補導であったが清々しい気持ちで終了した。

6月5日（木）

16班（I・K）記

**巡回経路** あいとぴあ → コンビニ → 田口児童館 → 五稜郭公園  
→ 青沼児童館 → あいとぴあ

### 活動の様子

真夏のような暑い中、専門補導委員3名と今年度から補導委員になられた2名と私の6名で今年度初めての巡回補導活動を実施しました。コンビニの軒下で、4名の男子高校生が楽しそうに話をしていました。話しかけると、明るく話をしてくれ、楽しい会話ができました。気をつけて帰るよう伝えて別れました。田口児童館では、いつも20名ほどの児童が利用しているようです。天気良かったので、館庭では泥んこ遊びをしたり、館内ではそれぞれ賑やかに楽しそうに遊んだりしていました。青沼児童館は「白田小学校」の児童よりも「さやか星小学校」の児童の方が多く利用しているとのことでした。五稜郭公園では、祖母が見守る中、小学生が遊具を使用しながら楽しそうに遊びまわっていました。今回は、新しい補導委員との活動でしたが、とても有意義な活動ができました。



6月6日(金)

13班(K・H)記

**巡回経路** 中込駅 → 成知公園 → 中込児童館 → 学童保育  
→ 大型スーパー → 橋場公園 → 水上公園 → 横町公園

**活動の様子**

成知公園には、小学生5名と保護者1名が静かに遊んでいた。こちらの声かけに素直に応じてくれ、いろいろな話をしてくれた。中込児童館は、中込小学校で引き渡し訓練があったため、利用している児童は数人のみで、本日は静かな状況であった。館長さんは「通常は、約100人の児童が利用していますが、そのうちの約50人は1年生です。建物の老朽化が今一番の問題です」と話してくれた。学童保育では、人懐っこい子どもが英語を使って出迎えてくれた。訪問時、利用している児童は数人であったが、通常は30人くらいが利用しているらしい。佐久市の助成金と保護者会費で運営されている子育て支援事業で、設立されて約45年になるそうだ。朝7時30分頃から夜8時ころまで児童を預かることもあるようで、保護者が安心して働けるために「貢献は大である」と感じた。佐久市内外の児童を預かっており、南アルプス市からの参加もあるとお聞きした。

6月9日(月)

3班(I・S)記

**巡回経路** 大型スーパー → 砂田公園 → 若宮公園 → 一本柳公園  
→ 大型スーパー → ゲームコーナー

**活動の様子**

砂田公園では、暖かな日でしたので、親子2組が遊んでいました。また、男子高校生7名が話し込んでいました。仲の良い友達同士で、よくこの公園を利用しているとのことでした。自転車の止め方に注意を促し、その場を後にしました。若宮公園では、児童3名が勢いよくブランコをこいでいました。こちらから話しかけると、元気にジャングルジムに登って見せてくれました。一本柳公園には2名の児童と、2組の親子が遊んでいました。砂場で幼い子を遊ばせていた母親は、暖かくなってきたので、時々この公園に来ていると話してくれました。大型スーパーは、月曜日のためか、どの売り場も客はまばらでした。ゲームコーナーでゲームを楽しんでいた親子に声をかけると、このゲームセンターをよく利用しているとのことでした。



6月10日(火)

10班(H・F)記

**巡回経路** 生涯学習センター → 取出町ふれあい公園 → 東田公園  
→ 中嶋公園 → 原公園 → 城山公園 → 成知公園 → 成田公園

**活動の様子**

あいにくの雨のため、生涯学習センター内を巡回した。近隣の小学校女子児童5名が、いずれも宿題に取り組んでいた。こちらからの問いかけに元気よく答えてくれた。1時間ほどしたら4名は徒歩で家に帰るとのこと。もう1名の児童は、母親が迎えにくるとのことだった。帰り際に「がんばって」と声をかけると、逆に私たちに「がんばって」と声を返してくれた。生涯学習センターを後にして、雨のため野沢地区の基本的なコースを車窓

から見回りをした。中嶋公園には、自転車利用と徒歩の高校生2名を見かけたのみで、他の公園に人影は無かった。

6月11日(水)

14班(T・K)記

**巡回経路** 中込駅 → 中込会館 → 成田公園 → 橋場公園 → 水上公園  
→ 横町公園 → 佐太夫町公園 → 成知公園 → 中込児童館  
→ 学童保育 → 大型スーパー

### 活動の様子

補導委員になり、初めての街頭補導であった。雨上がり直後だったこともあり、いくつかの公園を巡回したが、成知公園以外は児童・生徒の姿はなかった。成知公園には小学校高学年の男児が数名おり、ゲームをする児童とサッカーをする児童の2組がいた。ゲームをしていた児童は、使用時間を決めてゲームをしていると話していた。親子でルールを決めていることは良いことだと思う。サッカーをしている児童は専門補導委員の問いかけに素直に答えており好感が持てた。本日の中込児童館の利用児童は100名余であった。雨天なので人数が多いのかと思ったが、天候に関わらず100名余が利用するとのことで、中込小学校児童数を考えると利用率が高いと思われる。その後に学童保育にうかがったが、こちらも相当数の児童がおり、良い雰囲気の中で子どもたちも安心して過ごしていると思われる。児童館と学童保育は、ともに中込小学校の近くに位置し、利用率の高さとともに、放課後の児童の安全確保に大きく寄与していると考えられる。本日の巡回では不具合と思われることは一切なかった。

6月12日(木)

18班(M・Y)記

**巡回経路** 佐久市役所浅科支所 → 下原こどもひろば → 庄ノ上公園  
→ 浅科児童館 → コンビニ → 浅科図書館

### 活動の様子

児童館のほかは、子どもの姿はなかった。公園も夏草が生い茂っているようすから、普段から子どもたちの公園利用が少ないことがうかがえる。そもそも地域の子どもの数が少ない。児童館を見学させていただいた。当日は80名ほどの児童が、館内や館庭で活動中で、大変活気がある場であった。館長さんのお話では、さらにこの後、高学年の児童が加わるということであった。地域の神社・寺院・空地から、子どもたちの姿が見えなくなって久しいが、児童館がかつての「さまざまな学びの場」の役割を果たしているのだと感じた。また、コンビニのオーナーさんから、店の利用状況や、気になる点をうかがったが、いわゆる「村うちの子どもたち」に関しては、ほとんど問題はないとのことであった。



6月13日(金)

4班(K・M)記

**巡回経路** 大型ゲームセンター → ネットカフェ → ゲームセンター  
→ 小田井児童館 → 曾根公園 → 大型ゲームセンター

## 活動の様子

大型ゲームセンターの店内では、10数人（大人10人くらいと子ども4人くらい）がゲームを楽しんでいた。私たちが、店舗から外に出ようとした時、2名の男子児童が店内に入ってきたので、声かけをした。児童は市内の小学校6年生で「ママと買い物に来ました。『ママはもう少し買い物をするからその間、ゲームをしていなさい』と言われゲームセンターに来ました。ママは隣の店で買い物中です」と来店理由を話してくれた。ネットカフェでは、ブース利用者の他にもゲームコーナー（1組）・ダーツコーナー（2組）・カラオケルーム（3組）にも来客があり、それぞれ楽しんでいた。次に小田井児童館を訪問した。本日は児童の利用が少なく、数名だけだった。館内では、児童が「コマ遊び」「読書」「バスケットボール」などをして過ごしていた。遊戯室にいた一人の児童は、ゴールネットのないバスケットリングに向かって、ボールを投げてシュート練習をしていた。ゴールネットがないことを聞いてみると「ずっと前から壊れていて、ネットはついていない」とのことだった。小さなことかもしれませんが、子どもたちにとっては、遊びの中でリングにネットがあるとないのでは、楽しみも大きく変わるのではないかと思います。何とかならないものかと思いました。



6月16日（月）

5班（K・T）記

**巡回経路** 浅間会館 → 中央公園 → 鼻顔公園 → 若宮公園 → 一本柳公園  
→ 枇杷坂公園 → 浅間会館

## 活動の様子

令和7年度の最初となる街頭補導活動が行われました。天候も晴天に恵まれ、良きスタートが切れたと思います。本日は初回巡回ということで、車両にて主に公園を中心に訪問しました。中央公園、鼻顔公園、若宮公園、一本柳公園、枇杷坂公園など、大きささまざまな公園が浅間会館近くに存在します。鼻顔公園では親子連れの幼児たちを見かけました。また、一本柳公園では小学生の男子児童が遊んでおり、学校での日常の話を聞けました。サッカーをしたり、ゲームをしたり、会話に興じたりして楽しそうでした。声かけをした子どもたちは、みな素直で良い子ばかりの印象でした。感想として、緑豊かな歴史ある公園もあれば、最新の公園は遊具が充実し、広大な空間を有している公園もあり、公園整備の充実に驚きました。あと、時計等の設置が少なかったので改善が期待されます。

6月17日（火）

11班（N・S）記

**巡回経路** 生涯学習センター → 野沢多目的広場（人工芝エリア・交流ひろば等）  
→ 原公園 → 城山公園

## 活動の様子

生涯学習センターにて、中学生の子どもたちに声かけをしました。近々、テストがあるとのことで仲良く勉強していました。野沢多目的広場では、熱い中「人工芝エリア」でサッカーをしている子どもたちに声かけをしました。「交流施設」では、施設を管理してい

る方にお話を聞きました。長時間にわたって、行儀の悪い高校生がおり、注意をしたことがあるとのことでした。場所的には良いところなので、行儀よく多くの子どもたちに利用して欲しいと思いました。暑さのせいも、原公園・城山公園とも、あまり人はいませんでした。

**6月18日(水)**

6班(H・S)記

**巡回経路** 大型スーパー → 近津南公園 → ねむのき公園 → 市民交流ひろば  
→ 大型スーパー

### 活動の様子

梅雨の季節でありながら熱中症警戒情報が出されるような猛烈な暑さの中、初めての街頭補導巡回となりました。大型スーパー店では、買い物やゲームコーナーで過ごす中高生の姿は少なく感じましたが、ある店舗の店員の方に最近の様子をうかがい「このような巡回活動が非行防止の抑止力になっているのでは」というご意見をいただき、改めて補導活動の意義を認識しました。いくつかの公園を巡視しましたが、暑さのためか利用者は少なく、ねむのき公園では、10名ほどの小学生が仲よくサッカーやゲームを楽しむ姿が見られました。

**6月19日(木)**

17班(I・S)記

**巡回経路** 臼田交番 → 下の宮公園 → 臼田児童館 → 稲荷山公園  
→ コスモホール → 臼田図書館 → 下の宮公園

### 活動の様子

梅雨が明けたかのような真夏並みの暑さの中、街頭補導活動を始めました。最初に立ち寄った下の宮公園には、誰もいませんでした。臼田児童館では、暑さのためか、庭で遊んでいる子どもはいませんでした。熱中症警戒アラート機器が設置されており、子どもたちの熱中症対策がなされていました。エアコンがきいた館内では、15名ほどの子どもたちが勉強したり、遊んだりして過ごしていました。稲荷山公園には誰もいませんでした。



コスモホールは、新しくキッズスペースが開設され、毎日何組かの親子が利用しているとのことでした。併設の図書館にうかがうと、空調のきいた館内では、中学生や大人の方が、読書をしていらっしゃいました。最後に、再度下の宮公園に寄ると、2人の高校生と親子連れがいました。暑い中、シルバー人材センターの女性が、公園のトイレ掃除をされていました。公共の施設は大切に使用しなければいけないと改めて思いました。

**6月23日(月)**

15班(O・M)記

**巡回経路** 中込駅 → 佐太夫町公園 → 横町公園 → 佐久城山児童館  
→ 平賀新町公園 → 水上公園 → 橋場公園 → 成田公園  
→ 成知公園

### 活動の様子

巡回時間の2時間前までは台風並みの猛烈な風と雨が降っていたが、巡回時間がくると

雨も上がり、駅前では発車のベルの音とともに傘を片手に女子高校生数人が、ものすごい速さで駆け込んでいった。天気が悪いからか、公園内に人の姿を見ることはなかった。佐久城山児童館を訪れると大勢の児童であふれかえっていた。厚生員の方に話を聞くと約100名の児童が利用しており、4～6年生約40名は、佐久城山小学校体育館を利用しているとのことだった。児童館では遊戯室、図書室など部屋ごとに分かれており、卓球をしていた男子児童に「うまいね」と声をかけると「まあまあだよ」と答えてくれた。そんな中、ひとりの男子児童が折り紙を自慢げに見せてくれた。児童館裏にグラウンドを新設したが、見えにくいため、一人が必ず監視しているようだ。

**6月24日（火）**

**7班（I・H）記**

**巡回経路** 大型ゲームセンター → 平根児童館 → ネットカフェ

### 活動の様子

今にも雨が降り出しそうな曇天の下、大型ゲームセンターの店頭で専門補導委員の方々待ち合わせ、今年度最初の補導活動をスタートした。火曜日にもかかわらず、ゲームセンター内は大勢の来店客で混雑していた。40名ほどの客の中には、小学生や中学生も含まれていた。来店中の小学生に専門補導委員が声をかけ、親が同伴であるとわかり安心した。その後、平根児童館を訪ねた。子どもたちと大きな声であいさつを交わし館庭に入ると、10名の児童がサッカーに興じていた。異年齢混在で、上級生が下級生にアドバイスし、仲良く汗を流すようすを微笑ましく感じた。また、館内の遊戯室、談話室、図書室などで、大勢の児童が自由にのびのびと過ごしている姿を目にして、我々も清々しい気持ちで館を後にすることができた。最後に立ち寄ったネットカフェでは、ビリヤード室が満室となっており、個人ブースも5、6室が利用されていた。今年最初の補導活動であったが、何事もなく無事終えることができた。



**6月25日（水）**

**12班（S・M）記**

**巡回経路** 生涯学習センター → 取出町ふれあい公園 → 東田公園  
→ 野沢多目的広場 → 中嶋公園 → 原公園 → 城山公園  
→ 成知公園

### 活動の様子

曇天の午後で降雨の心配もあったが、雨が降ることはなかった。新任補導委員3名の初めての街頭補導活動であった。今回は、今後巡回する公園などの場所を確認することを主眼に、8か所の巡回場所を回った。集合場所にもなっている生涯学習センターでは、いつもより大勢の中学生、高校生が学習や時間調整をしていた。専門補導委員の部活動や試験勉強の問いかけに、思いのほかしっかりと返答していたのが印象的だった。雨の予報のせいもあって、多くの公園にはほとんど人影がなかった。城山公園では、男子児童7名が、サッカーボールで遊んでいた。皆とても元気で、はきはきと返答してくれた。5時半には

帰宅するとのことであった。最後に立ち寄った成知公園では、学年の異なる女子児童たちが、ベンチに座り談笑していた。専門補導委員の問いかけにも明るく答えてくれた。今回は天候のせいもあり、外で遊ぶ子どもが少ないように感じたが、外で出会った子どもたちは総じて元気で、専門補導委員の声かけにも臆することなく応答していたのが、新任者の私としては、大変印象的であった。

6月26日(木)

19班(Y・T)記

**巡回経路** 佐久市役所望月支所 → 望月図書館 → 若駒児童公園  
→ 望月児童館 → 布施温泉公園 → 望月バスターミナル

### 活動の様子

巡回時間前の激しい雨も上がり、よく晴れて蒸し暑い午後となった。そのためか、外で遊んでいる子どもを見かけることはなかった。望月支所2階の望月図書館には、読書をする大人や勉強をする中学生など、数名の来館者を目にしたが、館内は静かな雰囲気であった。若駒児童公園に人影はなかった。トイレや遊具の破損もなく、管理が行き届いていた。望月児童館は、通常70~80名の利用者があるそうだが、当日は103名もの児童がおり、大盛況であった。子どもたちは、各部屋で楽しそうに活動していて、親たちの迎えを待っていた。布施温泉は、毎月26日が優待日らしく、駐車場は満車であったが、公園で遊ぶ人を見かけることはなかった。最後に寄った望月バスターミナルは、バスを待つ客もなく、特に気になる状況は見当たらなかった。

6月27日(金)

8班(M・Y)記

**巡回経路** 浅間会館 → 紅雲台団地内の公園 → 大型スーパー → 東児童館  
→ 駄菓子屋 → ひよこ公園 → 浅間会館

### 活動の様子

梅雨入りして2週間ではあるが、梅雨明けを思わせる暑い日であった。本年から新しく補導委員になった3名にとっては、初回の巡回補導活動であった。午後4時に浅間会館に集合し、専門補導委員とあいさつを行い、まず浅間会館内の学習室を巡回した。1名がノートパソコンにて学習中のため、声をかけなかった。他の部屋では、習字を習っている数組の親子をドアのガラス越しに視認した。車で移動して紅雲台団地内の公園を巡回した。暑さのためか、子どもはいなかった。大型スーパーの駐車場を経由して、東児童館へ移動した。



館長さんにあいさつをした後、館内を見せていただいた。館内には、約40人の児童がボールで遊んだり、ピアノを弾いたり、ゲームをしたりするなど思い思いに過ごしていた。「こんにちは」とあいさつすると、とても気持ちよく「こんにちは」とあいさつを返してくれた。男児は4名で他は女児だった。児童館を後にし、駄菓子屋に立ち寄り、経営者にあいさつをし、お店のシステムについて話を聞いた。普段は、小・中学生が来店するとのことだが、訪問時、来店者はいなかった。駒場区の「ひよこ公園」には、10名ほどの児童が木陰で会話をしたり、ボール蹴りをしたりして遊んでいた。その後、浅間会館へ戻り、解散となった。

## F A B L E [féibl] 昆虫記

今年もまた暑い夏がやってきた。遠い記憶を辿って、小学生の夏休みの頃を思い出した。

幼い頃から、昆虫に興味があった少年Hは、夏休みになると捕虫網と虫かごを持って、近くの野や山に出かけた。狙うは、水辺を美しく滑空するオニヤンマや、雑木林の樹液に集まるクワガタムシだ。とはいっても、虫かごはいつも空のまま。それでも、昆虫図鑑を眺めながら今日出会った虫たちの名前を確認して、明日の出会いにわくわくする。そんな夏休みのこと。あれは多分小学校3年、いや2年の時だった。少年Hは、いつものように捕虫網と虫かごをかかえて、クワガタムシを採りに出かけた。お気に入りのクヌギの古木にそっと近づき、木陰からようすをうかがった。その瞬間、鳥肌が立つような光景を目にした。樹液に集まったさまざまな甲虫の中に、今まで見たこともない美しい蝶が大きな羽をゆっくり動かしながら、樹液を吸っている。オオムラサキだ。図鑑で見た正にあの蝶が、目の前にいる。身をすくめ、しばらくその蝶を眺めていた。胸が高鳴り、捕虫網を持つ手が震えた。だが、少年Hは静かに後ずさりして、もう一度その美しい蝶の姿を脳裏に焼き付けると、静かにその場を後にした。その日以来、雑木林に入ることはしなかった。

私がオオムラサキとの再会を果たしたのは、2022年7月である。暑さも和らいだ夕刻に、近くの菜園に出かけた私は、カボチャの葉に止まるオオムラサキを発見した。静かに近づくと、その蝶は微動だにしない。あわててスマートフォンを取り出しその姿を撮影した。翌日、その場所にオオムラサキの姿は

なかった。その話を妻にすると、妻が不思議な話をしてくれた。菜園の近くで、オオムラサキが肩に止まった。瀕死のその蝶を、木陰の葉の上にそっとのせてあげたというのだ。それは確かに、私が見つけたオオムラサキに違いない。ところが数日後、さらに不思議なことが起こった。農園の小屋の軒下で、オオムラサキを発見したのだ。すでに息絶えたその蝶は、羽を広げたまま、今にも飛び立ちそうな姿でたたずんでいた。ところが、妻が葉の上にのせたオオムラサキは、この蝶とは別の蝶であり、近くでその蝶の死がいを見つけた。



令和4年7月8日撮影

2匹の蝶の死がいを手に取ると、なんともやるせない気持ちになった。2022年盛夏、これほど不思議な出来事があるだろうか。どうしてもこの出来事を心に刻みたかった。2匹のオオムラサキの死がいを我が家に持ち帰って、標本にすることにした。

かつては当たり前目にすることができたジャノメチョウやシジミチョウなどの仲間は、絶滅危惧種に指定されている。オオムラサキもまた減少率が高く、環境省のレッドリストで準絶滅危惧種に指定されている。少年Hが目撃させた、ミヤマクワガタ、タガメ、ギンヤンマ、タマムシ…最近では、いやここ数十年、まったく見かけなくなった。環境の変化が虫たちに及ぼす影響の大きさを、改めて思い知らされる。

私がまだ随分若いころ、職場の同僚で蝶に詳しいOさんがいた。蝶の数え方に「匹」を使わず「頭(とう)」を使うと聞いて驚いた。オオムラサキの標本を目の当たりにして、1頭(とう)、2頭(とう)…と数える数え方に違和感はないのだ。